

第二期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画(案)についての パブリックコメントで頂いたご意見全文

No.1 女性 30歳代

こちらの趣旨に沿ったものかはわからないのですが、市立小学校で欠席時に連絡帳でのやりとりしか出来ないのが不便すぎます。

朝の忙しい時間に病気の子を置いて友人の家に連絡帳を託すのも、帰りにまた持ってきてもらうのも大変ですし申し訳ないです。うちの息子も悪天候の中連絡帳を届けに行くのがとても大変そうでした。

メールやアプリで連絡できたら助かる人が多いと思います。メールならお手紙やプリントも送れますし、是非検討していただきたいです。

そして、発達障害児の診察等の受け入れ先が市外しかないのも不便です。発達障害の診断の為に病院に行くにしても療育園に行くにしても市外に行かざるを得ません。市の方にも相談していますし職員の方も親身に相談に乗ってくれます。

しかしまだ発達障害疑いのため、しばらく様子を見ましようとなってしまう、こちらから積極的に動かないと療育などにも繋がりにくいのです。

こちらでも検討いただきたいと思います。宜しくお願い致します。

No.2 男性 30歳代

保育所の利用定員数と入所者数の推移の状況を見ると、どの年度も定員に対して入所者数が多いのに何故保育士の正規雇用を増やさないのか？

共働き世代が多い中、市立保育園の保育士の中には当然子育てしてる人も居てで、保育所に子どもを預けて仕事をしていると思うが、預けている限り子どもが熱とかあったら迎えに行かないといけな状況になるが、核家族が多いので保育士本人が迎えに行き休まないといけなくなるが、保育士が少ないから休みづらい環境ではないのか。

保育の質の維持・向上をする為にはまず人材確保の改善も大切ではないのか。

嘱託職員の時や今の会計年度職員の募集も人数が多いのは新規雇用した保育士がすぐに辞めたり、他市の保育所に転職したりしているは藤井寺市の保育士の仕事の負担とかが多い等の現状があるんじゃないでしょうか？辞めない人を雇う事をするべきではないでしょうか？

嘱託職員や会計年度職員を何年も続けている職員を正規雇用にしたり、今まで藤井寺市の嘱託職員や会計年度職員をしていた人に正規雇用としてお願いするなど、対策も必要だと思います。

また、共働き世代が多いので出産後職場復帰するのには、必然的に保育所で預ける必要が出て来るので、幼稚園の入所者数が少なくなるので、ニーズに合っていないので変えて行く必要があるのではと思います。

子どもの出生数が減っているが、子育てには経済的負担もかかるのでもっと子どもを産めやすい支援が大切だと思います。